

3月街角景気が悪化

2カ月ぶり金利上昇に不安の声

内閣府が8日発表した3月の景気ウォッチャー調査によると、街角の景況感を示す現状判断指数(季節調整値)は前月比1・5ポイント下の49・8となり、2カ月ぶりに悪化した。物価高を背景とした買い控えや天候不

順が、小売業などでマイナスに響きました。基調判断は「緩やかな回復基調が続いているものの、一服感が見られる」を維持しました。先行きについては、日銀の政策変更による金利上昇を不安視する声も出たといいま

す。

分野別では、家計動向関連が1・5ポイント、企業動向関連は2・0ポイントの低下でした。それぞれ「気温が低い影響で婦人服関係の春物が動いていない」「近畿の百貨店」「原価が上がり販売価格に転嫁でき

ない」「北海道の金属製品製造業」といったコメントが出ました。2〜3カ月先の見通しを示す先行き判断指数は5カ月ぶりに悪化し、1・8ポイント低い51・2に。「ローンで購入する車の買い控えが起きると予想」(東京都

の乗用車販売店)といった金利上昇への懸念がありました。